

視 察 報 告 書

報告者氏名

齊藤 真理



1 会派名
公明党

2 期間
平成30年8月3日（金）午後3時から

3 視察都市及び視察項目

（1）千葉県市川市

ア 市川市で5年前から実施されている「胃がんリスク検診」における効果と課題について

4 所感

市川市では、平成25年度から、従来のX線による胃がん検診に加え、ピロリ菌の有無と、胃の萎縮度合いを判定する、「胃がんリスク検診」を実施している。

国の動向

平成18年6月、「がん対策基本法」が制定された。その基本理念は、「がんの克服を目指し、がんに関する専門的、学術的又は総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上その他の研究等の成果を普及し、活用し、及び発展させる事」と定められている。

がん検診については、第四条に、「地方公共団体は、基本理念にのっとり、がん対策に関し、国との連携を図りつつ、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務を有する」と、地方自治体の責務が明記されている。

さらに、第十三条では、「国及び地方公共団体は、がんの早期発見に資するよう、がん検診の方法等の検討、がん検診の事業評価の実施、がん検診に携わる医療従事者に対する研修の機会の確保その他のがん検診の質の向上等を図るために必要な施策を講ずるとともに、がん検診の受診率の向上に資するよう、がん検診に関する普及啓発その他の施策を講ずるものとする」とある。

それらの国の指針を踏まえつつ、市川市では、市独自の検査として、従来の胃X線検査、胃内視鏡検査と合わせ、実施している。

導入までの経緯

市川市では、平成20年頃から、胃がん検診の受診率の低迷（7%程度）が続いたため、対策を検討していたところ、ピロリ菌と胃がんの関係を研究されている国府台病院院長から「胃がんリスク検診（ABC検診）」の推奨があった。その後、平成23年度から、市川市医師会とともに、胃がんリスク検診導入に向けての準備を開始することとなった。

昭和38年度～	胃エックス線検診を集団検診で実施
平成20年	胃がん検診率の低迷が問題視。議論開始
平成21年度	胃エックス線の個別検診を医師会に提案したが、精度管理上困難なことから実現できなかった。
平成23年1月	国立国府台病院（現 国立国際医療センター） 上村直実医院長より、市に、ABC検診推奨
平成23年2月	保健所主催「胃がん予防講演会」開催
平成23年6月	市川市医師会と共に検討開始（平成25年2月まで11回開催）
平成25年3月	市川市医師会員に向け、胃がんリスク検診説明会開催
平成25年4月	胃がんリスク検診スタート

胃がんリスク検診導入による費用負担について

① 市の負担

・委託料 1件当たりの検査料金 3,715円

(3, 400円+消費税315円)

*従来のエックス線検査は、一件当たり 4, 402円 (税込み)

② 受診者の負担

・自己負担額 600円

*ただし、70歳以上、千葉県後期高齢者医療被保険者、非課税世帯、生活保護受給者は無料

*市川市では、他の検診も自己負担600円 (内視鏡検査は1, 500円)

胃がんリスク検診実施のメリットについて

従来のエックス線による胃がん検診のデメリットである、

- 1 個別検診が難しい。
- 2 検診車が大型である為、検診会場が限られる
- 3 硫酸バリウムと発泡剤を飲んで行う検診である為、バリウム誤嚥、排便便秘などの症状が起きやすく、受診者の体への負担がある。

一方、胃がんリスク検診は、個別検診が可能であるため、市の健康診査と共に検査することが出来、検査方法も、採血による検査の為、身体への負担が少ないなどの理由から、エックス線による胃がん検診未受診者も、受診しやすくなる。受診者本人が、胃がんになるリスクを知ることが、エックス線による胃がん検診や、内視鏡による検査を定期的かつ、積極的に受診する動機づけとなる。

それによって、確実に、がんの早期発見につながる。

胃がんリスク検診の内容について

① ピロリ菌抗体検査

- ・ピロリ菌の感染の有無を調べる検査
- ・ピロリ菌は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍や慢性萎縮性胃炎を発症させるとされ、慢性萎縮性胃炎が胃がん発症に深く関係するとされている。

② 血清ペプシノーゲン検査

- ・血液中のペプシノーゲンの量を調べ、胃の萎縮を調べる検査
- ・慢性萎縮性胃炎があると、胃がんを発症する可能性が高いと言われている。

＊胃がんは、ピロリ菌の影響により、胃の粘膜が萎縮し、がんが発症するとされている。この２種類の検査を併せて実施し、胃がんになりやすいか否かをA～D群に分類し、B～D群を精密検査（内視鏡検査）につなげる。

胃がんリスク検診実施形態について

① 個別検診（市川医師会に委託）

- ・血液検査の為、特定検診や後期高齢者の健康診査、各種がん検診と同時に受信が可能

② 対象者

- ・今までに、胃がんリスク検診を受けたことがない、40歳から75歳までの5歳刻みの年齢の方が対象（リスク検診は、人生に1度だけ検査するもの）
- ・対象者全員に受診券を発送。受診券はその年度に受信可能なものすべて同時に郵送している。
- ・リスク検診対象の年は、エックス線検査は対象外とした。（平成29年まで）

検診結果の対応について

- ・検診を受けた医療機関で、本人が直接医師から結果説明を受ける。
- ・結果が陽性（ピロリ菌に感染している）となり、精密検査が必要な場合は、医師が結果説明の際に、紹介状と医療機関リストを渡す。
- ・検診医療機関と精密検査医療機関は、精密検査結果報告書を市に提出する。

胃がんリスク検診の効果について

① 受診者数の増加

- ・集団検診のエックス線検査と比較し、受診者数は増加。
- ・5年間の受診者数

リスク検診	52,517人
エックス線	19,532人

- ・5年間の対象年齢人口の受診率

リスク検診	21.4%
エックス線	1.5%

② 精密検査発生率の増加

- ・ リスク検診受診者の 34 % が要精密検査

③ がん発見率の増加

- ・ 5 年間のがん発見率

リスク検診	0.28 %
エックス線	0.16 %

④ ピロリ菌除菌による効果

- ・ 5 年間の除菌者 6,425 人 (要精密検査者の 37.4 %)

- ・ 胃がんになりやすいかどうかを知り、ピロリ菌を除菌することにより、胃がんの予防が可能になる。

まとめ

ピロリ菌の感染が、胃がん発症の原因の 98 % という概念は、すでに、世界の常識となっているにもかかわらず、リスク検診が、胃がんによる死亡率の減少につながるという、確たるエビデンスが得られていないことから、国としては、いまだに、エックス線、または、内視鏡による検査を推奨している。しかし、高齢化が進む中で、従来の胃がん検診だけでは、検診率の増加は難しい。胃がんによる死亡率を減少させるためには、喫煙や、過度の飲酒、不規則な食生活の改善など、がんになりにくい生活習慣の改善も大切ではあるが、それ以上に、胃がんの原因であるピロリ菌の有無を調べ、除菌と共に、早期発見、早期治療に結び付けることが、きわめて重要である。

今回、導入から 5 年を迎え、6 年目に入った市川市での取り組み、効果について、様々学ばせていただき、大変参考になるとともに、流山市でも導入が必要であると、強く確信した。